

エルサルバドル政治経済月報 (2022年10月分)

2022年11月
在エルサルバドル大使館

内政

1. 選挙における電子投票の導入（報道：エル・ムンド）

10月18日、エルサルバドル国会は、在外エルサルバドル人の電子投票に係る法案「在外選挙権行使特別法」を可決した。これにより、在外エルサルバドル人のうち、当国の身分証明書（DUI）を所有し、かつ、同証明書に記載されている住所がエルサルバドル国内の場合、同有権者は在外に設けられる選挙会場において対面式の電子投票を行うことが可能となる。一方、DUIは所有するが、同証明書に記載されている住所が国外の場合、もしくは当国のパスポートを所有している場合は、同有権者はインターネットを介した遠隔での電子投票（実施期間は30日間）を行うことが可能となる。

2. マラス「MS-13」幹部（ブルー）に対する懲役刑の宣告（報道：エル・ムンド）

10月27日、エルサルバドル特別裁判所は、マラス「MS-13」の幹部であるディアス容疑者（通称：ブルー）に対し、殺人の教唆・共謀の罪で10年、不正取引罪で15年及び違法団体結成罪で14年、合計39年の懲役刑を宣告した。なお、米国政府はエルサルバドル政府に対し、ブルーの身柄引き渡しを要請していたものの、エルサルバドル最高裁判所は身柄引き渡しを拒否し、同容疑者は当国で裁かれる旨表明していた。

外交

1. ヒル外務大臣の韓国訪問（エルサルバドル外務省プレスリリース）

(1) グローバル成長研究所（GGGI）所長（元国連事務総長）との会談

10月4日、ヒル外務大臣は、バン・ギムン・グローバル成長研究所（GGGI）所長（元国連事務総長）と会談を行い、エルサルバドル農牧省が実施予定の6億ドルのプロジェクト（スマート農業を導入し、女性や若者のキャパシティの向上を可能とするもの）の具体化のためのGGGIの支援に謝意を示した。

(2) サムスン電子代表との会談

10月4日、ヒル外務大臣は、8月にエルサルバドルで行われたイ・ジェンソン・サムスン電子代表とブケレ大統領との会談のフォローアップとして、同代表との間でエルサルバドルの技術力向上に係る会談を行った。

(3) 韓国外交部長官との会談

10月5日、ヒル外務大臣は、パク韓国外交部長官と会談し、韓国及び韓国国民がブケレ大統領の推進している社会及び経済イニシアティブを信頼し、支援していることに謝意を表した。またヒル大臣は、韓国とエルサルバドルの関係は強固であり、価値と主義を共有するほか、両国の社会及び経済発展の探求という点で一致したものであると述べ、両国の外国関係樹立60周年を祝福した。

(4) 韓国輸出入銀行（Eximbank）総裁との会談

10月5日、ヒル外務大臣は、ユンEximbank総裁と会談し、同総裁に対してブケレ政権に対する支援及び信頼を感謝しつつ、Eximbankが総工費の51%を出資するロス・チョロス幹線道との近代工事といった、ブケレ政権の推進する戦略的国家プロジェクトの進捗状況について説明した。

また同行から受けている約2億3,000万ドルの譲許的融資によるその他のモビリティ・インフラ分野における工事の進捗状況についても説明を行った。

2. ヒル外務大臣のサウジアラビア訪問（エルサルバドル外務省プレスリリース）

(1) サウジ開発基金（SFD）最高経営責任者との会談

10月13日、ヒル外務大臣は、サウジ開発基金（SFD）のアル・マルシャド最高経営責任者と二国間関係、協力、経済・貿易関係に係る会談を実施した。同会談において、ヒル外務大臣は、ブケレ大統領がアジア大陸の国々と関係を更に深める国際的なプロジェクトを重要視している旨強調し、特にクリーンエネルギーの投資誘致等に関心を抱いていると発言した。

(2) 外務大臣との会談

10月15日、ヒル外務大臣は、ファイサル外務大臣と会談を行った。両大臣は、両国の協力関係を更に深め、外交関係及び友好関係を引き続き活気づけていくことで一致した。ヒル外務大臣は、特に再生可能エネルギー分野において、サウジアラビアはエルサルバドルの生産的なプロジェクトの潜在的なパートナーである旨述べた。また、同大臣は、サウジアラビアと共に、奨学金や科学研究プログラムの実施を可能とする協力協定に加えて、二国間貿易、保健制度、飲料水の供給、エネルギー部門の強化等を模索していく旨指摘した。

(3) 観光大臣との会談

10月15日、ヒル外務大臣は、サウジアラビアとの投資及び観光に係るプロジェクトの強化を目的に、アル・ハティーブ観光大臣兼SFD諮問委員会代表と会談を行った。同会談でヒル外務大臣は、サーフシティ、空港や太平洋鉄道等の大規模プロジェクトに係る投資誘致や観光計画を説明した。両大臣は、風力や地熱発電といった再生可能エネルギーや燃料に関する協議を行うとともに、ヒル外務大臣より、エルサルバドルが議長国を務めた国際再生可能エネルギー（IRENA）総会へのサウジアラビアの参加を強調した。

(4) サルマン国王人道援助救援センター統括責任者との会談

10月17日、ヒル外務大臣は、アル・ラビーア・サルマン国王人道援助救援センター統括責任者と会談を行った。ヒル外務大臣は、自然現象に対するリスクを最小限に抑えるイニシアティブの支援のために同センターとの協力を深めたい旨述べた。また、ヒル外務大臣は、エルサルバドルが被害を受けた熱帯暴風雨（フリヤ）やハリケーンといった災害リスクを有する地理的及び環境的な条件下にある旨を説明しつつ、ブケレ政権が気候変動による一連の被害を抑えるためのプロジェクトを推進している旨発言した。さらに同大臣は、ブケレ政権が緊急事態に対する人道的対応計画（el Plan de Respuesta Humanitaria）を策定しており、その中には、気候・環境現象によって起こされる影響を最小限にするための行動も含まれている旨述べた。

3. ヒル外務大臣のモロッコ訪問（エルサルバドル外務省プレスリリース）

(1) 外務・アフリカ協力・在外モロッコ人大臣との会談

10月17日、ヒル外務大臣は、モロッコの首都ラバトにて、ブリタ・モロッコ王国外務・アフリカ協力・在外モロッコ人大臣と二国間プロジェクト及び協力に係る会談を実施した。同会談において、両大臣は、在モロッコ・エルサルバドル大使館の開設を契機とした両国の外交関係のあり方について協議を行った。ヒル外務大臣は、エルサルバドルは、西サハラ問題の現実的、実用的且つ持続的な解決に向けたモロッコの取り組みへの支持を表明し、（西サハラ地域の）自治計画がこれらの取り組みの重要な一歩である旨述べた。さらに、両大臣は、両国間の第2回政策対話を短期間のうちに実施することに合意するほか、保健、水、エネルギー、観光及び手工芸品等の分野における二国間協力に係る協議を行った。

(2) 在モロッコ・エルサルバドル大使館の開設式

10月18日、モロッコ訪問中のヒル外務大臣は、在モロッコ・エルサルバドル大使館の開設式に参加した。ヒル外務大臣は、「在モロッコ・エルサルバドル大使館の開設式を主催できることを誇らしく思う、アフリカ大陸での大使館開設はブケレ政権にとって初めてである」と発言した。ヒル外務大臣は、モロッコ政府及び同国民に対し、中南米地域における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対応のための素晴らしいインフラ整備を充実させた象徴的なプロジェクトであ

る、「エルサルバドル病院」の建設及び関連機器の支援に謝意を表した。また、観光誘致におけるモロッコの成功例を紹介し、同分野を介して協力、投資や知見交換が強化されうる旨述べた。さらに、ヒル外務大臣は、エルサルバドルが安全で秩序ある、且つ正式な方法で進展させていくプロセスとして、移住に係るテーマを深めることが重要である旨強調した。

4. 米墨国境で身柄を拘束されたエルサルバドル人不法移民数（報道：エル・ムンド）

米国税関国境取締局（CBP）の発表によれば、2022年米国会計年度における米墨国境で身柄を拘束されたエルサルバドル人は、9万7,797名であり、前年と比べて1,666名減少した。身柄を拘束された全体数は249万3,721名となり、前年と比べて53万7,202名増（27%増）となった。また、国籍別にみると、メキシコ国籍者が最も多く、次にグアテマラ、キューバ、ホンジュラス、ベネズエラ、ニカラグア、コロンビアと続き、エルサルバドル国籍者は8番目に多い結果となった。他方で、人口10万人当たりの身柄拘束者数の割合は、エルサルバドルが1,552名であり、ニカラグア、ホンジュラス、キューバに次いで、4番目に高い結果となった。

経済

1. 経済見通しの発表（報道：主要各紙）

(1) エルサルバドル中央銀行

エルサルバドル中銀は、2022年第2四半期のGDP成長率及び経済成長見通しをプラス2.8%に上方修正した。また今年の経済成長見通しを前回6月の公表値から0.2%上方修正し、プラス2.8%とした。

(2) 世界銀行

10月4日、世界銀行は、2022年の当国の経済成長率を6月の発表より0.3ポイント下方修正し、2.4%になる旨予測した。世銀によれば、本年における当国の経済成長率の見通しは中米諸国の中で最も低い数値となった。また世銀は、米連邦準備理事会（FRB）による利上げ、ウクライナ危機、ラ米諸国からの輸出需要の低下及び中国のゼロコロナ政策の4つの要因が、ラ米諸国を含む世界の経済成長率のペースを鈍化させている旨分析した。

(3) IMF

10月11日、IMFは当国を含む世界各国の経済成長率の見通しを発表し、当国の経済成長率を4月の前回の発表から0.4ポイント低い、2.6%に下方修正した。またIMFは今年における当国の経済成長率の見通しは中米地域で最も低い旨指摘した。

(4) 国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ECLAC）

10月19日、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ECLAC）は、2022年の当国の経済成長率の予測値を8月の前回発表から変わらず2.5%とした。これは中南米地域において最も低い数値となった。他方で、ECLACは、2022年における中南米地域全体の経済成長率の見通しを前回発表から0.5ポイント高い3.2%になる旨予測した。ECLACは、中南米地域は、経済成長率及び世界貿易の減速、更なる金融引き締め、低いグローバル流動性が予測される好ましくない国際情勢に晒されているだけでなく、同地域における各国経済の国内要因が、それぞれの生産活動に影響を与えていると指摘した。

2. 燃料の固定価格化の延長（報道：ラ・プレッサ・グラフィカ）

10月18日、当国国会は、同月20日を期限としていた燃料の固定価格化を2022年12月31日まで延長する法案を賛成75票で可決した（反対0票、棄権2票）。同法案の可決により、当国政府は燃料の固定価格化を8か月以上継続することとなる。またセラヤ財務大臣は、本政策により毎月5,000万ドルの費用がかかる旨述べた。

3. IDBによるエルサルバドル投資に対する見方（報道：エル・ムンド）

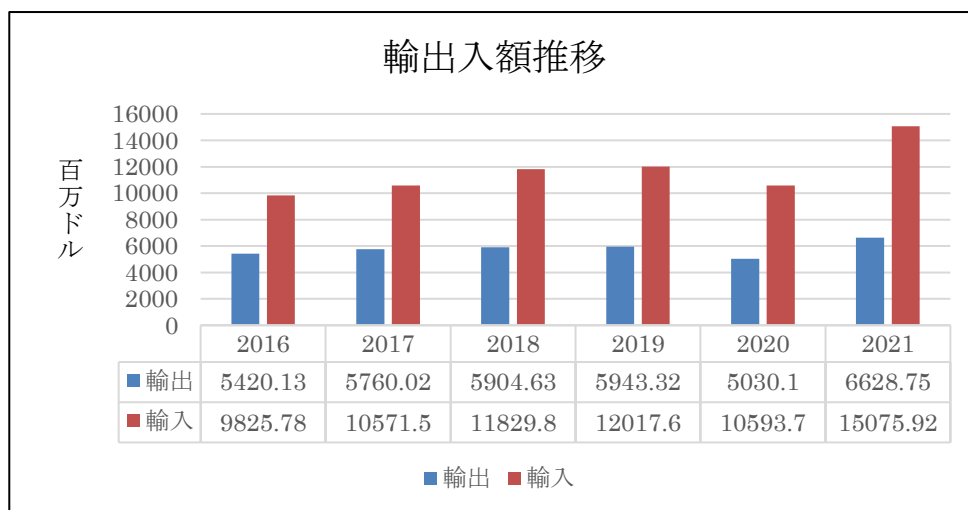
米州開発銀行（IDB）の貿易・投資部門に所属するオカンポ専門家は、製造業における1時間当たりの当国の人件費は、米国と比べて96%低く（ママ）、中国と比べても57%低い旨説明し、投資誘致の可能性が高いことを指摘した。同専門家は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）及びウクライナ危機が契機となり、サプライチェーンの見直しが検討されるなか、多くの米企業は製造を続けるために、従来はアジア諸国に拠点を有していたところを中米のような地理的により近い国々に拠点を移しつつあり、エルサルバドル国内に17か所あるフリーゾーン、税制優遇や42か国との貿易協定を発展させることで、当国にもメリットがある旨説明した。

4. 日本航空との協議（エルサルバドル外務省プレスリリース）

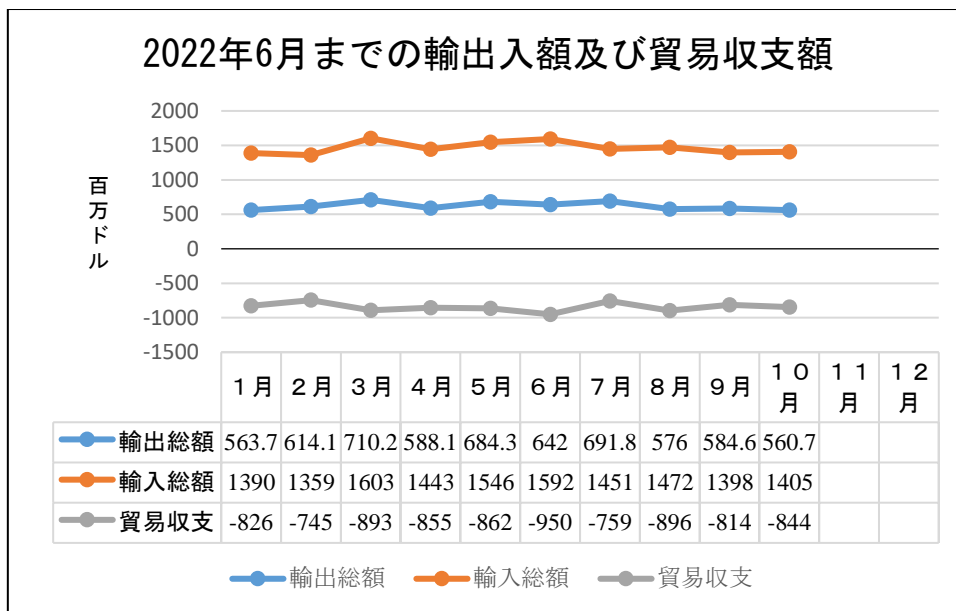
10月25日、エルサルバドル外務省は、駐日エルサルバドル大使館を通して、日本航空（JAL）とのオンライン協議を行い、観光振興政策及びコマラパ国際空港の利用活性化に係る可能性について情報共有を行った。協議に参加していたバルデス観光大臣は、「双方向の観光者数を増やすにはコネクティビティが不可欠、日本やアジア地域の旅行者にとって、中米地域にエルサルバドルという戦略的パートナーがいることを知っていただきたい」と発言し、エルサルバドルには中米地域で最も広く、且つ近代的な空港であるコマラパ空港があり、日本とエルサルバドルを結ぶルートが既に準備されていること等を紹介した。ダルトン駐日エルサルバドル大使は、エルサルバドルでは現在、13の航空会社が運航しており、また10か国23路線の直行便がある旨述べた。さらには、2022年9月までに180万人の海外観光者を受け入れ、平均滞在日数は8.4日、ここ数年間の日本人観光客者数は約4,800人であると述べた。これに対し、豊島 JAL 路線事業本部長は、今回頂いた情報は日本や米国のような在留邦人のたくさんいる国々に対してのエルサルバドルのプロモーションを行う上で非常に興味深いものであると発言、橋本 JAL 国際路線戦略グループ部長は、エルサルバドルは新たなパートナー、そして長期的に重要な関係を築ける可能性があるると述べた。

5. 貿易総額

・2021年の輸出総額は66億2,880万ドル（前年比31.8%増）。輸入総額は150億7,592万ドル（前年比47.1%増）となった。



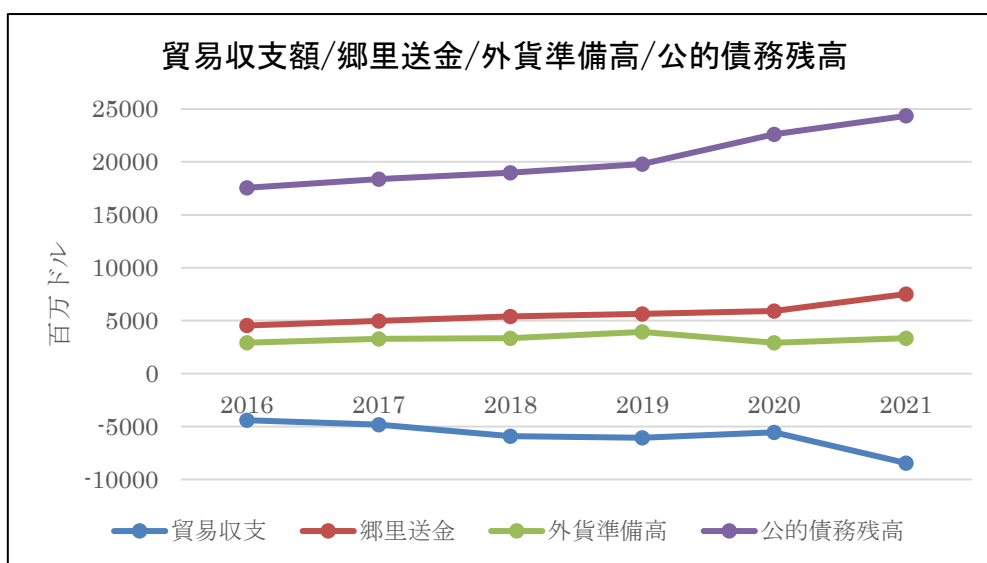
（エルサルバドル中銀データをもとに作成）



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

6. 貿易収支額・郷里送金・外貨準備高・公的債務残高

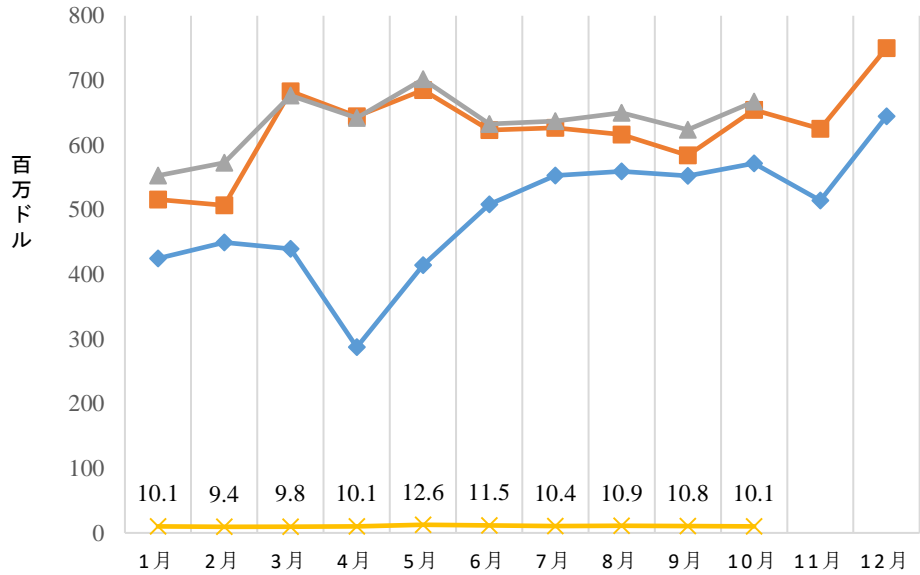
- ・ 2021 年度の貿易収支額はマイナス 84 億 4,720 万ドルとなり、前年より赤字額が 28 億 8,357 万ドル拡大した。
- ・ 2021 年の郷里送金額は 75 億 1,710 万ドルとなった。そのうち米国からの送金は全体の 94.9% (71 億 3,050 万ドル) を占めた。



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

郷里送金額推移表（2020年～2022年）

◆ 2020年 ■ 2021年 ▲ 2022年 ✕ 2022年（デジタルウォレット）

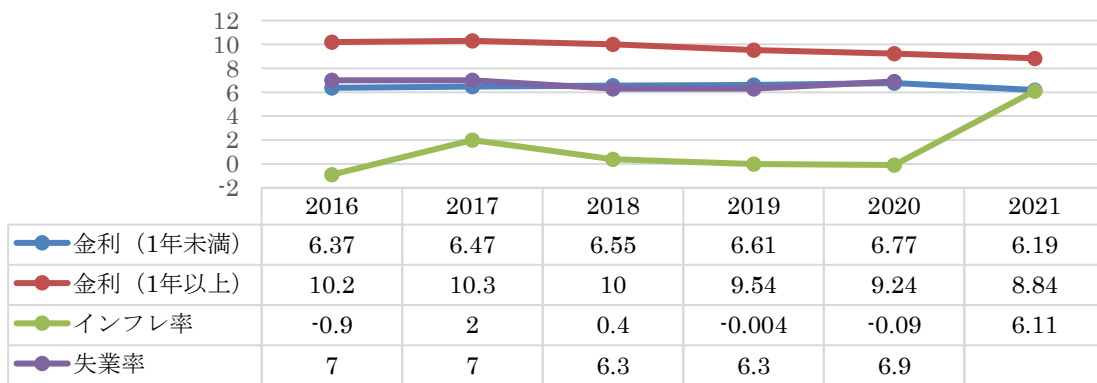


（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

7. 金利・インフレ率

・2021年のインフレ率はプラス6.11%であった。また2020年のインフレ率はマイナス0.09%であった。2020年の失業率は6.9%であった。

金利/インフレ率/失業率



◆ 金利（1年未満） ● 金利（1年以上） ● インフレ率 ● 失業率

（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

治安

1. 例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限）の期間延長（報道：主要各紙）

10月14日、国会は、例外措置体制の30日間の期間再延長を承認した。ビジャトロ司法・公共治安大臣は、「今回の延長は、本件措置がもたらしている好ましい結果に対する多くのエルサルバドル国民からの支持に基づいている」と述べたほか、本件措置によって、これまで55,062人のギャング関係者が拘束され、銃器1,644丁、車両2,026台、携帯電話12,842台、そして124万ドル以上が押収されたと報告した。

2. 9月の殺人件数（報道：ディアリオ・エルサルバドル）

2022年9月は、殺人が無い日が19日間あり、エルサルバドルの歴史上最も安全な月の1つとなった。国家文民警察のデータによると、2018年の同時期には、1日あたりの殺人件数は5~15件あった。また、ブケレ政権下での殺人が無い日は、合計205日間となった。

【観光地等における危険度レベル】

レベル1:十分注意区域	レベル2:不要不急の渡航中止区域
国立ダビッドJ・グスマン人類学博物館(MUNA)	サンサルバドル旧市街
ティン・マリン児童博物館	平生三郎公園
エルサルバドル美術館(MARTE)	プエルタ・デル・ディアブロ
プレシデンテ劇場	
サンサルバドル近郊のゴルフ場	
ベンゴア球場	
サンサルバドル市国立民芸品博物館	
クスカトラン・スタジアム	
サンサルバドル火山	
カフェタロン・フットサルコート	
ラ・リベルタ県のビーチ	
イロパンゴ湖	
サンタテクラ旧市街	
コアテペケ湖	
セロベルデ自然公園	
エル・ピタル山	
ラ・パルマ市	
サンタテレサ温泉	
ステット旧市街	
サンアンドレス遺跡	
タスマル遺跡	
カサブランカ遺跡	
サンタアナ旧市街	
オロメガ湖	
エル・ホコタル湖	
サンミゲル市	
オロクイルタ市	

	窃盗	強盗	傷害	殺人	行方不明者	恐喝	車両盗難	車両強盗	強姦	交通事故死	誘拐
2022年9月	590	143	290	19	36	120	56	9	213	102	1
2022年10月	591	124	269	22	39	154	59	9	212	86	0

